

新学習指導要領で評価が変わる！

新学習指導要領における学習評価の進め方 (中学校 技術・家庭)



平成 24 年度から，中学校では新学習指導要領が全面実施となります。新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方については，平成 23 年 7 月に「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料」が，国立教育政策研究所教育課程研究センターから示されているところです。この「学習評価の進め方」は，新学習指導要領に基づく学習評価を円滑に進めていくための手引きとして，佐賀県教育センターが作成したものです。各学校における新学習指導要領に基づいた指導と評価を推進していくためにお役立てください。

(主な内容)

- 1 新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の考え方とその具体
- 2 中学校技術・家庭における教科目標，評価の観点とその趣旨について
- 3 中学校技術・家庭における学習評価の進め方
- 4 中学校技術・家庭における学習評価事例
- 5 中学校技術・家庭における学習評価の進め方 Q & A



新学習指導要領の趣旨を反映した学習評価の基本的な考え方

新学習指導要領の下での学習評価については、児童生徒の「生きる力」の育成をめざし、児童生徒の一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため、目標に照らしてその実現状況をみる評価（目標に準拠した評価）を着実に実施し、児童生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要です。併せて、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが求められています。

各学校における学習評価の進め方と留意点

各学校においては、評価規準を適切に設定するとともに、評価方法の工夫改善を進めること、評価結果について教師同士で検討すること、実践事例を着実に継承していくこと、授業研究等を通じ教師一人一人の力量の向上を図ること等に、校長のリーダーシップの下で、学校として組織的・計画的に取り組むことが必要です。また、年間指導計画を検討する際には、それぞれの単元（題材）において、観点別学習状況の評価に係る最適の時期や方法を観点ごとに整理することが重要です。このことが、評価すべき点を見落とししていないかの確認や、必要以上に評価機会を設けることによる無駄を省き、効果的・効率的な学習評価を行うことにつながります。

新学習指導要領における学習評価の観点について

(1) 従前と新学習指導要領における学習評価の観点

従前の観点	新学習指導要領における観点
「関心・意欲・態度」	「関心・意欲・態度」
「思考・判断」	「思考・判断・表現」
「技能・表現」	「技能」
「知識・理解」	「知識・理解」

(2) 新学習指導要領における学習評価の観点の説明

「関心・意欲・態度」

これまでと同様、各教科の学習に即した関心や意欲、学習への態度等を対象としたもので、その趣旨に変更はありません。

「思考・判断・表現」

「表現」については、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、各教科の内容に即して考えたり、判断したりしたことを、児童生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価することを意味しています。つまり、ここでいう「表現」とは、これまでの「技能・表現」で評価されていた「表現」ではなく、思考・判断した過程や結果を言語活動等を通じて児童生徒がどのように表出しているかを内容としています。

「技能」

従前において「技能・表現」として評価されていた「表現」も含む観点として設定されています。

「知識・理解」

これまでと同様、各教科において習得した知識や重要な概念を習得しているかどうかを内容としたもので、その趣旨に変更はありません。

中学校技術・家庭における教科目標（分野の目標）、評価の観点及びその趣旨

1 教科目標，評価の観点及びその趣旨

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して，生活と技術とのかかわりについて理解を深め，進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

基本的な考え方は変わっていませんが，これからの生活を見通し，よりよい生活を創造するとともに，社会の変化に主体的に対応する能力をはぐくむ観点から，分野の目標についても改善が図られています。

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
生活や技術について関心をもち，生活を充実向上するために進んで実践しようとする。	生活について見直し，課題を見付け，その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	生活に必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	生活や技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付け，生活と技術とのかかわりについて理解している。

下線は従前からの変更点であり，佐賀県教育センターによる。

2 分野の目標，評価の観点及びその趣旨

(1) 技術分野の目標，評価の観点及びその趣旨

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して，材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め，技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる。

ものづくりを支える能力などを一層高めるとともに，よりよい社会を築くために，技術を適切に評価し活用できる能力と実践的な態度の育成を重視しています。

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する技術について関心をもち， <u>技術の在り方や活用の仕方等に関する課題の解決のために，主体的に技術を評価し活用しようとする。</u>	材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する技術の在り方や活用の仕方等について課題を見付けるとともに，その解決のために工夫し創造して，技術を評価し活用している。	材料と加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する技術を適切に活用するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	材料や加工，エネルギー変換，生物育成及び情報に関する技術についての知識を身に付け， <u>技術と社会や環境とのかかわりについて理解している。</u>

下線は従前からの変更点であり，佐賀県教育センターによる。

(2) 家庭分野の目標，評価の観点及びその趣旨

衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して，生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに，家庭の機能について理解を深め，これからの生活を展望して，課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる。

自己と家庭，家庭と社会とのつながりを重視し，これからの生活を展望して，よりよい生活を送るための能力と実践的な態度の育成を重視しています。

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
衣食住や家族の生活などについて関心を持ち、 <u>これから</u> の生活を展望して家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとする。	衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付け、その解決を目指して家庭生活をよりよくするために工夫し創造している。	生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・ <u>基本的な</u> 技術を身に付けている。	家庭の基本的な機能について理解し、生活の自立に必要な衣食住や家族の生活などに関する基礎的・ <u>基本的な</u> 知識を身に付けている。

下線は従前からの変更点であり、佐賀県教育センターによる。

これまでと変わったところは？

評価の観点は今までと変更はないのですが、その趣旨については新学習指導要領の趣旨を踏まえて改善が図られている点に留意する必要があります。

特に「生活を工夫し創造する能力」の観点では、生活における課題の解決を目指して考える（思考力）、考えたことを基に課題の解決を図る（判断力）、考えたことを的確に表す（表現力）を含んでおり、これらを一体的に評価することが求められています。

技術・家庭科における学習評価の進め方

(1) 題材の目標を設定する

↓
・教科目標と分野の目標、学習指導要領の内容を分析し、各題材で確実に身に付けさせたい資質や能力を明確にした上で、題材ごとの指導目標を設定します。

(2) 題材の評価規準を設定する

↓
・題材で取り上げる内容と同じ内容の「評価規準に盛り込むべき事項」を参考にして、題材の目標を踏まえて、評価規準を設定します。
・評価規準は、評価の観点別に、生徒が目標を実現した（「おおむね満足できる」）状況を具体的に示したものとなります。

(3) 「指導と評価の計画」を作成する

↓
・指導の計画を立てて評価規準を位置付け、それらをどのような評価方法により評価するのかなどを具体的に示した「指導と評価の計画」を作成することが必要です。

学習活動に即した評価規準を設定する

↓
・題材における生徒の具体的な学習活動を想定して、「評価規準の設定例」を参考にして設定します。
・その時間のねらいや学習活動に照らして、いずれかの観点に重点を置くなど、適切に設定することが大切であり、単位時間ごとに指導目標を明確にして、ねらいが実現された状況を考え設定します

評価場面・評価方法を設定する

- ・評価場面の設定において、特に、「生活を工夫し創造する能力」の観点については、学習結果としての工夫だけでなく、学習過程における工夫について把握できるような評価場面の設定が大切です。
- ・評価方法を検討する際には、評価の観点に対応した方法を選ぶことや評価規準と組み合わせる設定することが大切です。

(4) 毎時間の授業の評価結果を記録する

- ・授業において、あらかじめ計画した「指導と評価の計画」に基づいて評価結果を記録していきます。

(5) 評価結果のうち「記録に残す場面」を明確にする

- ・学習内容においては、評価結果のうち「指導に生かす評価」か「評価結果として記録に残す評価」かを明確にします。
- ・「指導に生かす評価」は、評価結果によって一人ひとりに応じた指導に役立てていきます。

(6) 観点ごとに総括する

- ・集まった評価資料やそれに基づく評価結果（A，B，C）などを基礎資料として観点ごとの総括的評価（A，B，C）を記録する。

評価規準を設定する上での配慮事項

技術・家庭科においては、3学年を見通した指導計画を基に、題材で指導する内容を明確にして評価計画を立てていきます。評価規準を設定するにあたっては、国立教育政策研究所から公開されている「評価規準の作成のための参考資料」(以下、参考資料)を参考にして、各学校で実施される授業に即した評価規準を設定することができます。その際に次のような事項を配慮してください。

- (1) 「題材の評価規準」は、地域や学校の実態、生徒の発達の段階や興味・関心、分野間及び他教科との関連等を考慮し、各学校が定めた履修学年や授業時数を踏まえ、題材の目標を明確にした上で、関係する項目に対応した複数の「評価規準に盛り込むべき事項」を統合して設定するなど、実際の指導に対応した評価規準となるようにする。

具体例として、技術・家庭科における学習評価事例3（家庭分野）に示している「ふるさとの味に挑戦しよう - 佐賀の味 がめ煮（筑前煮）づくり - 」を取り上げ、題材の評価規準の設定の仕方の例を示していきます。

本題材の目標を「地域の食材について関心をもち、その食材を日常食に生かした調理の工夫を考えたり、課題をもって実践したりすることができる。」としたとします。その場合、対応する題材の評価規準は、参考資料より、内容「B 食生活と自立」の【(3) 日常食の調理と地域の食文化の評価規準に盛り込むべき事項】となります。

【「(3)日常食の調理と地域の食文化」の評価規準に盛り込むべき事項】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
日常食の調理と地域の食文化について関心をもって学習活動に取り組み、食生活をよりよくするために実践しようとしている。	日常食の調理と地域の食文化について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	地域の食文化の意義について理解するとともに、日常食や地域の食材を生かした調理に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。

しかし、題材の目標を「地域の食材について関心をもち、その食材を日常食に生かし、環境に配慮した調理の工夫を考えたり、課題をもって実践したりすることができる。」としたとすると、併せて、内容「D身近な消費生活と環境」の【(2)家庭生活と環境の評価規準に盛り込むべき事項】が加わることになります。

【「(2)家庭生活と環境」の評価規準に盛り込むべき事項】

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
環境に配慮した消費生活について関心をもって学習活動に取り組みよりよい生活を実践しようとしている。	環境に配慮した消費生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。		消費生活と環境とのかかわりについて理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

このように、どのような目標を設定するかということに応じて、それぞれの内容に対応した【評価規準に盛り込むべき事項】が参考資料に記載されていますので、それをそのまま活用できる場合もありますが、設定した題材の目標や学習内容に合わせて、組み合わせたり具体化したりすることも必要です。

この題材例では、例えば、次のような題材の評価規準を設定することが考えられます。

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
地域の食材を生かした日常食などの調理に関心をもち、環境に配慮した調理を実践しようとしている。	地域の食材を生かす調理や環境に配慮した調理の方法について工夫している。	地域の食材を生かし、環境に配慮した調理に関する基礎的・基本的な技術が身に付いている。	地域の食材のよさが分かり、日常食に地域の食材を用いることの意義や環境に与える影響を理解することができる。

このように、題材の目標に合わせて、参考資料を基に題材の評価規準を設定してください。

(2) 「学習活動に即した評価規準」は、その時間のねらいや学習活動に照らして「評価規準の設定例」を参考にして設定する。その際、毎時間4観点について評価するのではなく、いずれかの観点到重点を置くなど、適切に設定する。

具体例として、観点「生活を工夫し、創造する能力」の「学習活動に即した評価規準」を検討したものを示します。表の左側に「参考資料」で示されている評価規準の設定例を示しています。それを基に、表の右側に、実際に行う学習活動の内容に即した評価規準を検討した例を示しています。各学校の環境に応じて、取り上げる学習活動の内容が違ふことを踏まえて、「学習活動に即した評価規準」は、その学習活動の内容に即して具体的に設定していくことが必要です。

学習活動に即した評価規準の検討例 1

内容「D情報に関する技術」

(1) 情報通信ネットワークと情報モラル

「ウ 著作権や発信した情報に対する責任と、情報モラル」

指導学年 時間 題材 評価規準の設定例 (国立教育政策研究所 参考資料)	第3学年
	1時間
	学校紹介のホームページを作ろう (情報発信時の注意)
	情報に関する技術の課題を明確にし 社会的、環境的及び経済的側面などから比較・検討するとともに 適切な解決策を見いだしている。

設定例の下線部を、実際の学習活動に即して波線部のように具体化した例です。

学習活動に即した評価規準の検討例 2

内容「C生物育成に関する技術」

(2) 生物育成に関する技術を利用した栽培又は飼育

「ア 目的とする生物の育成計画を立て、生物の栽培又は飼育ができること」

指導学年 時間 題材 評価規準の設定例 (国立教育政策研究所 参考資料)	第2学年
	2時間
	ペットボトルで稲作をしよう。
	目的とする生物の育成に必要な条件を明確にし 社会的、環境的及び経済的側面などから 種類、資材、育成期間などを比較・検討した上で 目的とする生物の成長に適した管理作業などを決定している。

設定例の下線部を、実際の学習活動に即して波線部のように具体化した例です。

各観点の評価方法は？

【生活や技術への関心・意欲・態度】は、どうやって評価するの？

この観点は学力の要素の中で主体的に学習に取り組む態度に対応した観点です。技術・家庭科が対象としている学習内容に関心を持ち、自ら課題に取り組もうとする意欲とともに、将来にわたって実践しようとする態度が身に付いているかを評価するものです。

技術分野においては、現代社会を支える技術について関心を持ち、その在り方や活用の仕方などに対して客観的に判断・評価し、主体的に活用しようとする態度が身に付いているかを見ます。例えば「技術と社会や環境との関わりに関心をもっているか」「技術に関する倫理観や新しい発想を生み出し活用しようとしているか」などを評価することになります。

家庭分野においては、身近な生活の課題を主体的にとらえ、課題解決を目指して意欲的に取り組み、家庭生活をよりよくするために実践しようとする態度が身に付いているかを見ます。例えば、「衣食住や家族の生活などについて関心をもっているか」「意欲的に課題を解決しようとしているか」「家庭生活をよりよくするために進んで実践しようとしているか」などを評価することになります。

この観点は、ある程度長い区切りの中で適切な頻度で多面的に評価することが大切です。また、同じ学習活動の中で他の観点と併せて評価する場合も考えられます。その際は、それぞれの観点における具体的な実現状況と評価方法を明確にしておくことが大切です。

この観点は、行動観察、発言の内容、学習カードの記述内容などで見取ることができます。

【生活を工夫し創造する能力】は、どうやって評価するの？

この観点は学力の要素の中で、思考力・判断力・表現力等に対応した観点です。技術・家庭科では、知識・技術を活用して、生活を見つめて課題を発見する能力やその解決を目指して自分なりに工夫したり創造したりする能力が身に付いているかを評価するものです。

技術分野においては、技術と社会や環境とのかかわりについての理解に基づき、その在り方や活用の仕方を見直し、改善すべき課題を見付け、それらを解決するために、習得した知識と技術を基に工夫し創造して技術を評価したり活用したりすることができる能力が身に付いているかを見ます。例えば、「目的を達成するために制約条件の元で最適な解決策を考え出すことができるか」などについて評価することになります。

家庭分野においては、共通の観点「思考・判断・表現」に当たるものであり、学習した知識と技術を活用して、生活を見つめて課題を発見する能力やその解決を目指して自分なりに工夫したりする能力が身に付いているかを見ます。例えば、「衣食住や家族の生活などについて見直し、課題を見付けているか」「課題を多面的に考察しているか」「学習した知識と技術を活用して課題解決をしているか」「解決を目指して自分なりに工夫したり、自分の考えを生かしたりした取組をしているか」などについて評価することになります。

この観点では、生徒が考えたり自分なりに工夫したりしたことを、図や言葉でまとめ、発表し合うなど、言語活動を中心とした表現に係る活動を通して評価することに留意する必要があります。また、学習結果だけを評価するのではなく、学習過程の評価ができるような評価計画とすることが重要です。

この観点は、行動観察、発言の内容、学習カードの記述内容、実習の計画・記録表の記述内容、できた作品（の写真）相互評価の記述内容などで見取ることができます。

【生活の技能】は、どうやって評価するの？

この観点は学力の要素の中で、基礎的・基本的な技能に対応した観点です。技術・家庭科では、習得すべき技術を身に付けているかを評価するものです。

技術分野においては、材料、加工等の技術を適切に活用するために必要な基礎的・基本的な技術が身に付いているかを見ます。例えば、「様々な技術を活用するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けているか」について評価することになります。

家庭分野においては、生活の自立を図ることや生活を工夫し創造する能力の育成を図るための基盤として、生活の自立に必要な基礎的・基本的な技術が身に付いているかを見ます。例えば、「日常食の調理や衣服の選択と手入れ、布を用いた物の製作などに関する基礎的・基本的な技術を身に付けているか」などについて評価することになります。

この観点は基本的に教師用チェックリストを用いての行動観察で評価することになりますが、生徒の相互評価の記述や作品により、活動の過程における生徒の実現状況をより詳細に把握し、それを評価結果に生かすことも考えられます。その際、相互評価については、見本や写真と照らし合わせて評価をさせたり、グループやペアで行わせたりすることにより、技能の上達の状況を評価できるように工夫することが必要です。また、技能は繰り返し行うことによって身に付くことから、「指導に生かす評価」「努力を要する」状況(C)と判断される生徒の把握とその手立てを考えるための評価)と、「評価結果として記録する評価」を位置付けることも大切です。

この観点は、行動観察、できた作品(の写真)、相互評価の記述内容などで見取することができます。

【生活や技術についての知識・理解】は、どうやって評価するの？

この観点は学力の要素の中で、基礎的・基本的な知識に対応した観点です。技術・家庭科では、習得すべき知識を身に付けているかや重要な概念等を理解しているかを評価するものです。

技術分野においては、材料、加工等の技術に関する基礎的・基本的な知識が身に付いているか、また、技術と社会や環境とは相互に影響し合う関係にあることを理解しているかを見ます。例えば、「様々な技術を活用するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けているか」「様々な技術と社会や環境との関わりを理解しているか」などについて評価することになります。

家庭分野においては、生活の自立を図ることや生活を工夫し創造する能力の育成を図るための基盤として、家庭の基本的な機能についての理解と、生活や技術についての基礎的・基本的な知識が身に付いているかを見ます。例えば、「中学生の食生活と栄養や住居の機能と住まい方、家庭生活と消費などに関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか」などについて評価することになります。

この観点では、教師の指導において、話し合い、実際の活動などを通して、生徒が実感を伴って理解できるように配慮する必要があります。また、この観点の評価に当たってはペーパーテストなどで評価する方法が考えられますが、その際、一単位時間の中にその都度、位置付けるのではなくて、ある程度の内容のまとまりについて実施するなどの配慮が必要です。

この観点は、学習カードの記述内容、ペーパーテストなどで見取することができます。

技術・家庭科における学習評価事例 1 (技術分野)

題材全体を見通して、学習評価の進め方の事例

「身近な生活に役立つ木製品を作ろう」という題材を基に、学習評価の進め方について紹介します。

本事例は、「A材料と加工に関する技術」(2)「材料と加工法」,(3)「材料と加工に関する技術を利用した製作品の設計・製作」に関する題材です。

本題材では、生活に役に立つ木製品を作るというテーマの基に、自分の日常生活(家庭生活)を振り返り、生活をよりよくしていくための製品を製作していく中で、使用目的や経済的条件などの製品製作における様々な条件を考慮した製品を考える能力と態度を育成することと、木材に関する基礎的・基本的な知識や加工法の技術を身に付ける構成になっています。ここでは、30時間分の指導と評価の計画の中で、各観点の評価と観点別評価の総括方法等も含めた、学習評価の基本的な進め方を示しています。

1 題材名 「身近な生活に役立つ木製品を作ろう」

第1学年「A材料と加工に関する技術」

題材の指導計画 (総授業時数 30時間)

- | | |
|-------------------------|------|
| (1) 家庭生活をよりよくするものを考えよう。 | 4時間 |
| (2) 製作品の機能と構造を考えよう。 | 2時間 |
| (3) 木材の性質や特徴を知ろう。 | 1時間 |
| (4) 製作品の表し方を知り、製作図を作ろう。 | 7時間 |
| (5) 製作をしよう。 | 14時間 |
| (6) 身のまわりの「技術」について考えよう。 | 2時間 |

2 題材の目標

木材の性質や特徴を知り、木材の加工に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得させるとともに、自分の日常生活を振り返らせ、材料と加工に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解を深め、それらを適切に評価し活用する能力と態度を育成する。

3 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
材料と加工に関する技術に関わる倫理観を身に付け、知的財産を創造・活用しようとするとともに、材料と加工に関する技術を適切に評価し活用しようとしている。	生活をよりよくするために、材料と加工に関する技術を用いた製作品の機能と構造を工夫するとともに、材料と加工に関する技術を適切に活用している。	のこぎりやベルトサンダーなどの工具や機器を安全に使用できるとともに、製作図をかき、部品を加工し、組み立て及び仕上げができる。	木材の特徴と利用方法及び加工法や構想の表示法についての知識を身に付けるとともに、材料と加工に関する技術と社会や環境との関わりについて理解している。

*以下より、次のように示しています。 「生活や技術への関心・意欲・態度」 「関心・意欲・態度」

「生活を工夫し創造する能力」 「工夫・創造」

「生活の技能」 「技能」

「生活や技術についての知識・理解」 「知識・理解」

4 指導と評価の計画（全30時間）

時間	ねらい・学習活動	評価規準				評価規準(評価方法)
		関心・意欲・態度	工夫・創造	技能	知識・理解	
1 4	<p>家庭生活の中で、不便なところを見つけ、改善しようとしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での生活を振り返らせ、あると便利なものを考える。 ・あると便利なものをいくつか考え、スケッチする。 ・いくつかのアイデアの中から一つに決める。 					<p>関 家庭生活に関心をもち、生活をよりよくしようとしている。</p> <p>(観察、ワークシート)</p>
<p>まずは、家庭生活の中で不便なところについて、グループで話し合いをさせ、その話し合い活動の様子の観察や発言内容で評価します。しかしながら、全ての生徒の活動の様子を観察することは難しいので、話し合い後に記入するワークシートの記述内容の見取りなども含め、総合的に判断して評価します。</p>						
5 7	<p>目的や条件に応じて、製作品に必要な機能と構造を考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材の性質や特徴を知る。 ・使用の目的から、大きさ、使いやすさ、場所などに見合った機能を考える。 ・丈夫にするための構造を理解し、製作品の構造を考える。 					<p>関 目的や条件を満足させるアイデアを出し、活用しようとしている。</p> <p>(観察、ワークシート)</p> <p>工 目的や条件を満足させる、適切な形状と寸法を決定している。</p> <p>(ワークシート)</p> <p>知 木材の性質や特徴を理解している。</p> <p>(ペーパーテスト)</p>
<p>授業中の活動の観察とワークシートの記述内容を総合的に判断して評価します。</p>						
<p>授業後に、ワークシートの記録から形状と寸法を適切に決定しているかどうかを見て評価します。</p>						
8 14	<p>構想の表示方法を知り、製作図をかきことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャビネット図や等角図、第三角法の書き方を知る。 ・等角図で、構想図・製作図をかき。 					<p>技 製作品の構想図・製作図を等角図でかきことができる。</p> <p>(構想図プリント)</p> <p>知 キャビネット図、等角図及び第三角法などの見方やかき方について指摘できる。</p>
15 28	<p>製作図を基に、材料取り、部品加工、組立て、接合、仕上げができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工具や機器及び製作順序を整理し、作業計画を立てる。 ・さしがねの使用法を知る。 ・さしがねや定規を用いて、切り代や削り代を考慮した、けがきを行う。 ・両刃のこぎりの使用法を知る。 ・両刃のこぎりをを用いて切断を行う。 ・ベルトサンダーの使用法を知る。 ・ベルトサンダーで材料を加工する。 					<p>技 材料取り、部品加工、組立て、接合、仕上げができる。</p> <p>(観察、作品)</p> <p>知 それぞれの作業で使用する工具や機器の使用法について指摘できる。</p> <p>(ペーパーテスト)</p>
<p>実技テストを行うと、より正確に見取ることができると考えられますが、もし、実技テストの時間を確保できないときには、作業中に製作進度が速い生徒から順に、作業の様子や工具や機器の使い方などを見て評価することも考えられます。完成した作品から判断できる分については、それも考慮します。</p>						
<p>この時間に、作業中の生徒の様子を観察し、「関心・意欲・態度」を評価することも考えられます。</p>						

	<ul style="list-style-type: none"> ・仮組立てをしながら部品を点検し、必要ならば修正する。また、組立ての順序も確かめる。 ・組立てのためのけがきを行う。 ・切りの使用法を知る。 ・下穴あけを行う。 ・組立ての方法を知る。 ・組立てを行う。 ・紙やすりで表面を仕上げる。 				
29 30	<p>材料と加工に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について理解し、材料と加工に関する技術の適切な評価と活用について考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界中で木材を取り巻いている状況を調べる。 ・森林資源の開発と再利用について調べる。 	<p>これまでの授業を踏まえて、「木材」を中心に生活と環境について考える授業を構成し、グループでの話し合い活動の観察とその後記述するレポートの記述内容を総合的に判断して評価します。</p>			<p>関 木材を取り巻いている状況から、木材の使用について評価しようとしている。 (観察、レポート)</p> <p>工 木材を取り巻く状況から木材の使用について適切に評価している。 (観察、レポート)</p> <p>知 材料と加工に関する技術が社会や環境に果たしている役割と影響について説明できる。 (レポート)</p>

5 観点別評価の総括

題材ごとの観点別評価の総括にはいろいろな方法が考えられますが、その中の一例として、評価結果を数値化する方法を説明します。

[題材における観点別評価の結果を総括する場合の例]

ワークシートの記述や行動観察、実技テスト等の結果をそれぞれ3点満点で評価します。

で行った評価結果(点数)を観点別に合計し、例えば、各観点別の満点の「8割以上であればAとする」「8割未満～5割以上であればBとする」「5割未満であればCとする」などとあらかじめ決めておき、その目安に沿って総括の結果を決定します。

[観点別評価の結果から評定に総括する場合の例]

さらに、観点別評価の結果を評定に結び付ける方法もいろいろな方法が考えられますが、国立教育政策研究所の参考資料では、「AAAA」ならば4又は5、「BBBB」ならば3、「CCCC」ならば2又は1が適当と示されています。そこで、で算定した各観点の合計をまとめ、4観点の合計を算出し、例えば、満点の85%以上を「5」、80%未満70%以上を「4」、70%未満50%以上を「3」、50%未満30%以上「2」、30%未満を「1」とするなどの方法が考えられます。このときに、「B」になる基準と「3」になる基準が同じにすることを注意してください。これは、「BBBB」のときに、必ず「3」となるようにするための配慮です。



技術・家庭科における学習評価事例 2 (技術分野)

技術分野のガイダンスにおいての「生活や技術への関心・意欲・態度」を評価する事例

この事例では、新学習指導要領において実施されることとなったガイダンスについて、全3時間中の2時間分の指導事例を示し、その中で「生活や技術への関心・意欲・態度」の評価の進め方について紹介します。

ガイダンスの評価については、「生活や技術への関心・意欲・態度」の観点のみの評価となります。したがって、評価方法は、「観察」や「ワークシートの記述内容」等が適切であると考えられます。題材の構成に当たっては、全ての生徒が少なくとも「おおむね満足できる」状況(B)となるように、生徒の興味を喚起するように内容を工夫しましょう。

1 本時の目標

ものづくりの技術が我が国の伝統や文化を支えてきたことについて考えることができる。

技術の進展と環境との関係について考えることができる。

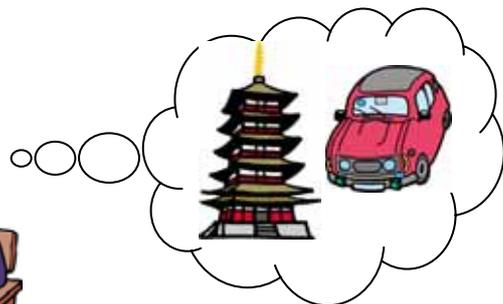
2 本時の評価

技術が、生活の向上や産業の継承と発展に果たしている役割と、技術の進展と環境の関係について関心をもっている。(生活や技術への関心・意欲・態度)

3 本時の展開(1・2/3時間)

	学習活動	指導の手立て ()内は時間 ・指導上の留意点	評価の進め方
導入	本時の学習内容を知る。	本時の学習内容を知らせる。(15) 「技術のすばらしさ」 「技術と生活のかかわり」	<p>中学校での初めての技術の授業となりますので、自己紹介や授業を進める上での約束事などについての説明をすることなども考え、導入の時間をやや長めに設定しています。</p> <p>ここで、本時の学習の目標を明確に示し、この後の活動の見通しをもたせるとよいでしょう。</p>
展開	<p>「技術のすばらしさ」を知る。</p> <p>(1) 日本人の発明</p> <p>(2) からくり人形</p> <p>(3) 法隆寺五重塔</p>	<p>日本人の様々な発明を紹介し、ものづくりで日本が成長してきたことを知らせる。(10)</p> <p>・日本人の発明品をクイズ形式で考えさせるなど、生徒に興味を高める工夫をする。</p> <p>からくり人形の動画や法隆寺の写真を見せながら、しくみを考えさせ、技術の繊細さを伝える。(10)</p> <p>・発問をしながら、動画や写真を見せ、動画や写真の中で着目するポイントに気付かせる。</p> <p>伝統的な技術で、感心させられたことをグループで話し合いをし、ワークシートのQ1に記述する。(15)</p>	

	<p>技術と生活との関わりについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術の進展と生活の向上 ・技術が引き起こす生活への問題 (例：自動車) 	<p>技術が生活の向上に影響を及ぼしていることを、洗濯機と自動車を例に挙げて考えさせる。(15)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗濯板から現在の洗濯機までの歴史を紹介し、技術の進歩について考えさせる。 ・歩行での移動から車での移動への変容の様子を紹介し、技術が進歩したことによって生じたメリット、デメリットについて考えさせる。 <p>技術が引き起こした問題についてグループで話し合わせ、ワークシートのQ2に記述させた上で、グループの代表に発表させる。(20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の発問に対しての自分なりの考えをワークシートのQ2の「あなたの考え」の欄に記述させ、それを基に、グループで意見交換をさせ、考えを共有させる。 ・メンバーの意見を集約し、グループの意見を「グループのまとめ」の欄に記述させ、発表させるようにする。 <p>問題解決のために技術が果たす役割に気付かせる。(ハイブリッドカーや電気自動車など)(10)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会や環境に問題が生じたときに、様々な技術と人間の想像力で、解決してきたことに注意を払わせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの話し合いの様子を観察するとともに、ワークシートのQ1の記述内容の見取りと合わせて、<u>総合的に判断し評価する。</u> <div data-bbox="1053 280 1444 784" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>話し合いをしている様子を観察する際に、評価規準に記した内容に沿った発言をしている生徒を記録します。ただし、全ての生徒の発言を記録することは難しいので、ワークシートの記述に話し合いの様相が見られれば、それも合わせて評価対象とします。</p> </div> <p>評価（関心・意欲・態度）</p> <p>技術が環境問題の原因と解決に深く関わっていることに気付き、技術の進展と環境との関係について関心を示している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの話し合いの様子を観察するとともに、ワークシートのQ1の記述内容の見取りと合わせて、<u>総合的に判断し評価する。</u> <div data-bbox="1053 1164 1444 1736" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>「自分の考え」の欄に評価規準に記したような気付きを記述している生徒はもちろんですが、その後のグループでの話し合いの中で、気付きが生まれた生徒や関心が高まった生徒についても適切に評価します。話し合いの様子の観察とワークシートの記述を相互補完的に扱って、適切な評価ができるように心掛けてください。</p> </div>
まとめ	本時のまとめをする。	ワークシートにまとめさせる。(5)	



<技術分野ガイダンス>

生活や社会における技術の役割について知ろう

1年 組 号 名前

日本の技術のすばらしさについて知ろう。(プレゼン・動画)

Q1. 紹介した伝統技術で感心させられたことを書いてください。

「からくり人形の動力は、電気じゃなく、ゼンマイだった」「乾電池が日本人の発明だったとは驚いた」というような新しい発見があり、技術的な記述があれば、少なくとも「おおむね満足できる」状況(B)であると判断できます。

技術と生活のかかわりについて考えよう

Q2. 自動車が引き起こす生活への問題はないだろうか？

・あなたの考え

「あなたの考え」の欄に「交通事故の問題」や「排気ガスの問題」など社会的、環境的な問題について記述できていれば、少なくとも「おおむね満足できる」状況(B)であると判断できます。グループでの話し合いを通して、気付きが生まれる生徒や関心が高まる生徒もいることを考え、話し合いの様子や行動観察とこのワークシートの記述の内容を総合して、より評価の適正を図ることが大切です。

・グループのまとめ

技術・家庭科における学習評価事例 3 (家庭分野)

題材全体を見通して、学習評価の進め方が分かる事例

この事例は、「B食生活と自立」の(3)「日常食の調理と地域の食文化」のイ、ウと「D身近な消費生活と環境」の(2)「家庭生活と環境」との関連を図った題材です。

本題材では、佐賀県の郷土料理や地域の食材に関心をもたせ、実際にがめ煮(筑前煮)の調理実習を通して、地域の食文化に触れると共に環境に配慮した調理の工夫を加え、家族での実践につなげる構成としています。

- 1 題材名 「ふるさとの味に挑戦しよう - 佐賀の味 がめ煮(筑前煮)づくり -」
第3学年「B食生活と自立」(3) 「D身近な消費生活と環境」(2)

題材の指導計画 (総授業時数6時間)

- | | |
|----------------------|-----|
| 〔1〕郷土料理を知ろう | 1時間 |
| 〔2〕がめ煮(筑前煮)について考えよう | 2時間 |
| 〔3〕がめ煮(筑前煮)に挑戦しよう | 2時間 |
| 〔4〕我が家のがめ煮(筑前煮)を考えよう | 1時間 |

2 題材の目標

地域の食材について関心をもち、その食材を日常食に生かし、環境に配慮した調理の工夫を考えたり、課題をもって実践したりすることができるようにする。

3 題材の評価規準

「題材の評価規準」については、「B 食生活と自立」(3)と「D 身近な消費生活と環境」(2)の「評価規準に盛り込むべき事項」を参考に設定しています。

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
地域の食材を生かした日常食などの調理に関心をもち、環境に配慮した調理を実践しようとしている。	地域の食材を生かす調理や環境に配慮した調理の方法について工夫している。	地域の食材を生かし、環境に配慮した調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	地域の食材のよさが分かり、日常食に地域の食材を用いることの意義や環境に与える影響を理解することができる。

4 指導と評価の計画（全6時間）

時間	ねらい・学習活動	評価規準				評価規準（評価方法）
		関心・意欲・態度	工夫・創造	技能	知識・理解	
1	<p>佐賀県の郷土料理や地域の食材に関心をもち、そのよさを理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 佐賀県の農水産物の産地マップを基に地域の食材について考える。 佐賀県の郷土料理について考える。 地域の食文化の意義について考える。 	<p>地域の食材を用いることの意義や環境に与える影響を理解しているかをペーパーテストで判断します。ペーパーテストはある程度内容のまとめりごとを実施することが適当ですので、この時間では、学習カードの記述で判断する程度に留め、ペーパーテストを実施する必要はありません。</p>				<p>関 地域の食材を生かした日常食などの調理を通して、地域の食文化に関心をもっている。 （行動観察，学習カード）</p> <p>知 地域の食文化の意義について理解している。 （学習カード，ペーパーテスト）</p>
2	<p>佐賀県の郷土料理がめ煮(筑前煮)について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> がめ煮(筑前煮)について調べてきたことをグループごとにまとめる。 	<p>がめ煮(筑前煮)について調べてきたことを話し合いに生かすことができているかを評価します。</p>				<p>工 がめ煮(筑前煮)に関する内容について、収集・整理した情報を活用して考えている。 （行動観察，学習カード）</p>
3	<p>地域の食材を生かし環境に配慮した調理の方法について工夫することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> がめ煮(筑前煮)の材料として地域のどのような食材を活用するかをグループごとに考える。 環境に配慮した調理の方法で調理手順を考える。 	<p>食材を無駄にしない調理方法や調理の際にエネルギーを節約するなどの工夫ができているかを計画表の記述を基に評価します。</p>				<p>関 地域の食材を生かし環境に配慮した調理の方法に関心をもっている。 （行動観察，調理計画表）</p> <p>工 地域の食材を生かし環境に配慮した調理の方法について工夫することができる。 （調理計画表）</p>

4 5	<p>地域の食材を生かし環境に配慮した調理の方法で、がめ煮（筑前煮）の調理ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践計画に基づき、がめ煮（筑前煮）の調理を行う。 ・各グループのがめ煮（筑前煮）を試食し、材料の違いによる味の違いを知る。 ・グループごとに環境に配慮した調理ができたかを確認する。 	<p>環境に配慮した調理の方法はグループごとに違うので、それぞれのグループが課題意識をもって調理できるようにし、その様子を観察するとともに、そのことを調理計画・実習記録表に記録できるような工夫が必要です。</p>	<p>関 地域の食材を生かし環境に配慮した調理の方法を調理実習で実践しようとしている。</p> <p>(行動観察, 調理計画・実習記録表)</p> <p>技 地域の食材を生かし環境に配慮した調理の方法で、がめ煮（筑前煮）の調理ができる。</p> <p>(行動観察)</p>
6	<p>これまでの学習を生かし、家族のための郷土料理がめ煮（筑前煮）の実践計画を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族のためのオリジナルがめ煮（筑前煮）の実践計画を立てる。 ・実践計画に基づいて、各家庭で実践し、家庭実践レポートにまとめて提出する。 	<p>各家庭の家族構成に配慮して、家族の好みや地域の食材を生かしたオリジナルがめ煮になるように助言します。</p>	<p>関 自分や家族の食生活をよりよくすることに興味をもち、課題を主体的にとらえ、日常食又は地域の食材を生かした調理などの計画と実践に取り組もうとしている。</p> <p>(行動観察, 実践計画表)</p> <p>工 自分や家族の食生活について課題を見付け、その解決を目指して日常食又は地域の食材などの計画を自分なりに工夫している。</p> <p>(実践計画表)</p>

5 観点別評価の進め方

(1) 生活や技術への関心・意欲・態度

この題材では、地域の食材を生かした日常食などの調理に関心をもち、環境に配慮した調理を実践しようとしているかについて評価します。

1・2時間目に設定している評価規準 については、教師による行動観察（資料1のチェックリストを使用）や学習カードの記述内容により評価します。地域の食材や郷土料理について考える場面や授業の感想を書く場面において、意欲的に授業に参加しようとする姿勢や地域の食文化のよさを感じ、関心をもっていることが分かる記述などを捉えて評価していきます。

資料1 行動観察に用いるチェックリストの例（一部）

（A：十分満足できる B：おおむね満足できる C：努力を要する）

時間	/ (1時)		/ (2時)	
評価規準	地域の食材を生かした日常食などの調理を通して、地域の食文化に関心をもっている。			
評価場面	郷土料理や地域の食材について考える		話し合い活動	
氏名	評価	気付いたこと	評価	気付いたこと
X	B		A	友達の発表を聞きながら、自分が調べてきたこととの違いを示し、グループ内での理解を深めている。
Y	B		B	
:				

評価規準 については、がめ煮（筑前煮）の調理を、環境に配慮した調理の方法で行うためのグループの話し合いの場面で評価します。グループでがめ煮（筑前煮）の材料について話し合う活動や、環境に配慮した調理の方法について話し合う活動に意欲的に取り組むことができているかについて、行動観

察を行います。また、調理計画表に環境に配慮した調理手順について記述されているかを評価します。

4・5時間目の評価規準 については、実際に調理実習に取り組む場面で評価します。調理計画に沿った調理をしている状況を教師による行動観察と実習後の実習記録表の記入内容から評価します。

6時間目の評価規準 については、今回の学習を生かして家庭への実践につなげようとするもので、教師による行動観察と合わせて、実践計画表の記入状況を評価します。

(2) 生活を工夫し創造する能力

この題材では、地域の食材を生かす調理や環境に配慮した調理の方法について工夫しているかについて評価します。2時間目の評価規準 については、がめ煮（筑前煮）に関する内容について、家庭で調べてきたものをグループや全体で共有化していきますが、その際の情報をきちんと収集し整理して、がめ煮（筑前煮）の調理や郷土料理の理解につなげていくことができているかを評価していきます。（資料2の学習カード参照）

資料2 生徒Hが記述した学習カード

佐賀の味「がめ煮」についてまとめよう	
3年 組 号 氏名 ()	
歴史	食べられている場面
[インターネット より] 九州北部地方の代表的な郷土料理。博多の方言「がめくり込む」(「寄せ集める」などの意)が名前の由来と言われている。	[祖母 より] 正月やお祝いの時
友達の調査より [a より] 文禄の役の時に、朝鮮に出兵した兵士がスッポンとあり合わせの材料を煮込んで食べたのが始まりで、亀煮から「がめ煮」となった。	友達の調査より
材料	地域の食材
[祖母 より] とり肉 里芋 干しいたけ こんにゃく ごぼう れんこん にんじん たけのこ	[祖母 より] 里芋 町 ごぼう 町 れんこん 町 にんじん 自宅
友達の調査より [b より] さつまいも	友達の調査より [b より] さつまいも 町
作り方	調理のポイント
[祖母 より] 最初に材料を全部炒める。干しいたけのもどし汁、酒、しょうゆ、みりん、砂糖を入れて、汁気がなくなるまで弱火で煮る。	[祖母 より] れんこんとごぼうは水にさらしておく。
友達の調査より [c より] とり肉から炒める。	友達の調査より [b より] 材料は、同じくらいの大きさに切る。 [c より] 色どりをきれいにするために、ゆでたさやいんげんを飾るとよい。
感想	
家庭によって、同じ「がめ煮」でも材料や作り方が少し違った。自分が作る時にやってみようと思った。これからは、祖母に「がめ煮」以外にもいろいろ教えてもらおうと思った。	

工夫・創造 の評価

生徒Hは、家でインターネットや祖母のインタビューから「がめ煮」について調べてきている。

(..... で囲んだ部分)

2時間目は、この情報を基に、グループで共有化を図り、グループでまとめていくこととなる。

生徒Hは、友達の調査から自分の調査にはなかった内容(情報)をきちんと整理し記入している。

(..... で囲んだ部分)

また、感想の中には、家庭ごとの違いに気付き、真似して実践してみようという気持ちになっている。よって、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

3時間目の評価規準 については、さらに環境に配慮した調理の方法についてどうすればよいかという課題を提示し、その中でいかに工夫して取り組むことができているかを評価します。(資料3参照)

6時間目の評価規準 については、家族のことを考えたオリジナルがめ煮(筑前煮)を考えさせる場面で記録した実践計画表の内容で評価します。

(3) 生活の技能

この題材では、評価規準 を4・5時間目の調理実習の場面で評価します。がめ煮(筑前煮)を環境に配慮した調理方法で実際に調理することができるかを評価することになります。(資料3参照)

資料3 生徒Iの調理計画・実習記録表(一部)

自己評価		該当する項目	
視点	観 点	評	評
調理	調理実習の準備はきちんとできましたか。	できた	だいたい
	作り方を理解して調理することができましたか。	できた	だいたい
	協力して、計画通りに調理実習ができましたか。	できた	だいたい
環境	地域の食材をできるだけ使うようにしましたか。	1種類	2-3種類
	できるだけ材料の皮を薄くむく。	できた	だいたい
	水をできるだけ少なく使うようにする。	できた	だいたい

技能 の評価

4・5時間目の調理実習後の自己評価(— で囲んだ部分)の結果や教師の行動観察結果より「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

工夫・創造 の評価

生徒Iのグループは、3時間目の調理計画を立てる段階で、環境に配慮した調理の方法として、2つの課題を考えることができた(.....で囲んだ部分)ので、「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

(4) 生活や技術についての知識・理解

この題材では、地域の食材のよさが分かり、日常食に地域の食材を用いることの意義や環境に与える影響を理解することができているかを評価します。1時間目に、地域の食材を用いることは食文化につながることで環境との関連もあるということを押さえて理解を深めていきます。この時間内においては学習カードの記入内容で理解を確認しますが、後日、ペーパーテストにより評価することとしています。

6 観点別評価の総括

(1) 題材の観点別評価の総括

題材の学習活動に即した評価規準に基づいて、毎時の授業における観点別評価をA、B、Cで評価します。その際、教師の評価補助簿を基に判断していきます。これらの評価の記録を総括する方法としては、例えば、それらを「観点ごと」にA 3、B 2、C 1というように数値化し、各観点の合計点について、満点の85%以上であれば「A」、84~50%であれば「B」、それ未満であれば「C」とするなどの方法が考えられます。同様に、「題材の総括」についても、「観点ごとの総括」のA、B、Cを3、2、1で数値化し、4観点の合計点について、満点の85%以上であれば「A」、84~50%であれば「B」、それ未満であれば「C」とする方法があります。

(2) 分野ごとの観点別評価の総括

題材ごとの観点別評価を合わせて分野ごとの総括とします。例えば、年間に家庭分野で3題材を取り扱った場合、題材1、題材2、題材3の観点別評価を行い、それぞれの観点ごとに総括して、家庭分野の観点別評価とします。

その際、題材1、題材2、題材3に配当する授業時数が異なる場合には、授業時数に応じて重み付けを行うことが考えられます。

技術・家庭科における学習評価事例 4 (家庭分野)

生活を工夫し創造する能力の学習評価の進め方が分かる事例

この題材は、「C衣生活・住生活と自立」の(1)衣服の選択と手入れのA,イに関するものです。

本題材では、衣服のはたらきを知り、自分らしい個性を生かす着用と目的に応じた適切な衣服の選択を考えさせるものです。実際に家から衣服を持ち寄り、衣服の選択に必要な情報について理解を深め、適切な衣服選びができることを目指すように構成しています。

1 題材名 「自分らしく目的に合った着方ができる人になろう」

第1学年「C衣生活・住生活と自立」(1)

題材の指導計画 (総授業時数6時間)

〔1〕衣服のはたらきを考えよう	1時間
〔2〕自分らしく目的に合った着方を考えよう	3時間
〔3〕衣服の活用と選び方を知ろう	2時間

2 題材の目標

衣服と社会生活のかかわりに関心を持ち、個性を生かす着用や時・場所・場合に応じた衣服の着用において適切な衣服の選択ができるようにする。

3 題材の評価規準

「題材の評価規準」については、「C衣生活・住生活と自立」(1)の「評価規準に盛り込むべき事項」を参考に設定しています。

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を工夫し 創造する能力	生活の技能	生活や技術について の知識・理解
衣服と社会生活とのかかわりに関心を持ち、個性を生かし目的に応じた衣服を着用しようとしている。	個性を生かす着用や目的に応じた衣服の適切な選択について考え、工夫している。	衣服の着用、選択に関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	衣服の着用、選択について理解し、基礎的・基本的な知識を身に付けている。

4 指導と評価の計画 (全6時間)

時間	ねらい・学習活動	評価規準				評価規準(評価方法)
		関心・意欲・態度	工夫・創造	技能	知識・理解	
1	衣服と社会生活とのかかわりに関心を持ち、衣服のはたらきについて理解することができる。 ・小学校の学習内容を振り返り、衣服のはたらきについて考える。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> 衣服の社会生活上の機能について理解しているかを、本時では学習カードで確認するとともに、後日、ペーパーテストで評価します。 </div>				関 衣服と社会生活とのかかわりについて関心をもって学習活動に取り組んでいる。 (行動観察, 学習カード) 知 衣服の社会生活上の機能について理解している。 (学習カード, ペーパーテスト)

2 3	<p>個性を生かす着用や目的に応じた衣服の選択について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一のT.P.O.の条件で準備した衣服を基に適切な選択について考える。 	<p>T.P.O.の条件に合わせて準備してきた衣服を展示し、お互いが選んできた衣服について相互評価を行います。</p>	<p>工 個性を生かす着用や目的に応じた衣服の選択について考え,工夫している。 (準備した衣服,学習カード,相互評価)</p> <p>技 個性を生かす着用や目的に応じた衣服の選択ができる。 (準備した衣服,相互評価)</p>
4	<p>個性を生かし,目的に応じた衣服の着用について理解することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色による印象の違いについてグループで確かめる。 ・目的に合わせた着方について知る。 	<p>グループごとに数色の色画用紙を使い,色による印象の違いを確かめる活動の場面で,活動に取り組んでいる生徒の様子を観察します。</p>	<p>関 個性を生かし,目的に応じた衣服の着用について関心をもって学習活動に取り組んでいる。 (行動観察,学習カード)</p> <p>知 個性を生かし,目的に応じた衣服の着用について理解している。 (学習カード,ペーパーテスト)</p>
5	<p>既制服の表示と選択に当たっ ての留意事項について理解し, 既制服を選択するための情報を 収集・整理することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既制服についている表示を調べ,意味をまとめる。 ・組成表示 ・取扱い絵表示 ・サイズ表示 など ・自分の体のサイズを測り,サイズ表示の見方を確認する。 	<p>既制服についている表示を調べたり,実際に体のサイズを測ったりしますが,その内容を理解できているかは,後日,ペーパーテストで評価します。</p>	<p>関 既制服の表示と選択に当たっ ての留意事項に関心をもって学習活動 に取り組んでいる。 (行動観察,学習カード)</p> <p>技 既制服を選択するための情報を収集・整理することができる。 (行動観察,学習カード)</p> <p>知 既制服の表示と選択に当たっ ての留意事項について理解している。 (学習カード,ペーパーテスト)</p>
6	<p>個性を生かす着用や目的に応じた衣服の適切な選択についてまとめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以前,考えた衣服を基に,個性を生かし,目的に応じた衣服に修正する。 	<p>これまでの学習を生かして,以前に考えた衣服のコーディネートをよりよいものになるように工夫する活動を設定し,その結果を記入した学習カードで評価します。</p>	<p>関 個性を生かす着用や目的に応じた衣服の選択をよりよくしようとしている。 (行動観察,学習カード)</p> <p>工 個性を生かす着用や目的に応じた衣服の適切な選択について考え,工夫している。 (学習カード)</p>



5 本時の展開 (6 / 6 時間)

(1) 本時のねらい

個性を生かす着用や目的に応じた衣服の適切な選択についてまとめることができる。

(2) 学習活動と評価

時間 (分)	学習活動	指導上の留意点	評価場面・評価方法
3	1 本時の学習のめあてを確認する。 自分らしく目的に合った着方ができる人になろう。		
7	2 これまでの学習を思い出す。 ・色・柄・形が与える影響 ・既製服の選び方 ・組成表示 ・取り扱い絵表示 ・サイズ表示	・以前 (2・3 時間目) 準備した衣服の写真を学習カードに貼り、その衣服が自分らしく目的に合った衣服選択になっていたかを考えさせる。	
15	3 自分らしく目的に合った着方になるような工夫を各自で考え、まとめる。 ・形 ・着方 ・色 (柄) ・素材 ・手入れ ・その他	・修正の様子が分かるように項目を分けて書かせる。	自分らしく目的に合った着方になるように工夫する場面 評価方法 【行動観察】 【学習カード】 関心・意欲・態度
10	4 グループで各自発表し合う。 ・相互評価をする。	・グループ内で発表させ、工夫点を共有できるようにする。	
10	5 グループのまとめを全体に発表し、自分らしく目的に合った着方の最終修正をして完成する。	・他の生徒の工夫を参考にしてさらに工夫を加える場合は修正内容を赤色のペンで追加させ、完成させるようにする。	
5	6 本時のまとめをする。	・自分らしく目的に合った着方の工夫を確認する。	評価方法 【学習カード】資料 4 工夫・創造

資料 4 学習カード 生徒 J

自分らしく目的に合った着方ができる人になろう

1年 組 号 氏名 ()

次の条件で、自分らしく目的に合った着方になるように工夫してみよう。

T (time) 時… 春		工夫したポイント	修正すること
P (place) 場所… 黒髪山		形 けがしないように長そで、長ズボンにした。	
O (occasion) 場合… 登山	着方 重ね着にして暑くなったら脱げるようにした。	色 (柄) T シャツを自分に似合う色と言われた黄色にした。	
当日の天気予報 曇り	素材	家で洗たくできるものにした。	
気温 最高気温 27 最低気温 19 降水確率 40%	手入れ		
	その他		

生活を工夫し創造する能力の評価は、課題解決を目指して自分なりに工夫したり創造したりする能力を評価するもので、学習結果だけでなくそこまでに至る学習過程も評価の対象になりますので、学習過程の評価ができる学習シート等の工夫が必要になります。

工夫・創造 の評価

生徒 J は、2・3 時間目に準備した衣服において考えた衣服の「形」「着方」に (..... で囲んだ部分)、本時の学習を踏まえて、「色 (柄)」「手入れ」の項目に対する工夫が見られ (—— で囲んだ部分)、少しでもよくしようという工夫・創造の過程がうかがえることから「おおむね満足できる」状況 (B) と判断した。「十分満足できる」状況 (A)

と判断した生徒の具体的な例

雨が降る可能性を考えて、上着の素材は、水をはじくものにし、汚れても家庭で洗えるものにする。

「十分満足できる」状況 (A) と判断する生徒は、すべての項目 (「形」「着方」「色 (柄)」「素材」「手入れ」) に対して工夫が見られ、個性を生かす着用や目的に応じた衣服の適切な選択ができているものと評価する。

技術・家庭科における学習評価の進め方Q & A

Q これからは1時間に1回または2回程度、評価を行えばよいということですか。

A 通知表や指導要録などのために記録に残す評価についてはそのようになります。しかしながら、その評価は本時の指導目標が達成できたかどうかという教師自身の評価でもあるので、すべての生徒が最低でも、「おおむね満足できる」状況(B)と評価できるようにしたいものです。そのためには、それまでの過程において、今まで通りに、生徒の学習状況について、形成的評価とそれに基づく適切な指導を行うことはいうまでもありません。

Q すべての生徒の状況进行评估するのは難しいと思いますが、何かよい工夫はないですか。

A 1時間の中で、全ての生徒について評価を行うのは確かに難しいと思います。例えば、調理計画で材料や手順に関心を持ち、意欲的に調べている場面やものづくりで材料や目的に応じて製作している場面など、適切に学習状況を把握できる場面を設定し、教師による行動観察と調理計画表や製作図、学習カードの記述内容から評価するという方法などがあります。また、行動観察等についても、できるだけ記入が簡単な教師用チェックリストなどを準備すると効率よく評価できます。チェックリストは、出席番号順の名簿よりも座席表の方がチェックしやすいと思います(資料5)。記録も、Bは空欄、Aの場合は、Cの場合は、というようにできるだけ簡単にしていきましょう。

資料5 座席表による評価 【例：技術・家庭科における学習評価事例4(家庭分野)の場合】

生徒 M	生徒 N	生徒 O	生徒 P	生徒 Q
生徒 H	生徒 I	生徒 J	生徒 K	生徒 L
第1学年 1組			観点別評価枠	評価記号
題材		教卓	関心・意欲・態度	工夫・創造
「自分らしく目的に合った着方ができる人になろう」			技能	知識・理解
6 / 6 時間				空欄 :A 空欄 :B 空欄 :C

Q 題材ごとの観点別評価をどのようにまとめていけば分野の観点別評価の総括になりますか。

A 毎時間の授業の評価結果を記録するために、題材ごとの観点別評価表を作成すると、観点ごとの総括がしやすくなります。題材の学習活動に即した評価規準に基づいて毎時の授業における観点別評価をA、B、Cで評価していきます。それを数値化し、各観点別に平均の数値を算定して評価を総括します。

資料6 題材の観点別評価表 【例：技術・家庭科における学習評価事例4(家庭分野)の場合】

題材1 「自分らしく目的に合った着方ができる人になろう」																		
題材の評価規準	関心・意欲・態度						工夫・創造						基礎的・基本的な知識を身に付けている。					
	衣服と社会生活とのかかわりに関心を持ち、個性を生かして目的に応じた衣服を着用しようとしている。						個性を生かす着用や目的に応じた衣服の適切な選択について考え、工夫している。						衣服の着用に関する基礎的・基本的な技術を持っている。					
学習活動に即した評価規準					計	平均	観点総括					計	平均	観点総括				
時	1	4	5	6			2・3	6			2・3	5		1				
氏名																		
生徒 J	A	A	B	A	11	2.8	A	B	B	4	2	B	A	B	5	2.5	B	C
生徒 K																		
:																		

観点別評価の数値化
A = 3, B = 2, C = 1

観点別評価の総括

2.6 以上	A
1.5 ~ 2.5	B
1.5 未満	C

次に、題材ごとの観点別評価を合わせて分野ごとの総括を行います。例えば、年間に家庭分野で3題材を取り扱った場合、題材1、題材2、題材3の観点別評価を行って、各観点ごとに総括して分野の観点別評価とします。その際、題材1、題材2、題材3に該当する授業時数が異なる場合には、授業時数に応じた重み付けを行うことが考えられます。例えば、授業時数を題材1に6時間、題材2に12時間、題材3に6時間を配当した場合には、題材1と題材2と題材3の各観点の点数を1：2：1に加重平均する方法が考えられます（資料7）。

資料7 分野の観点別評価表

観 点	関心・意欲・態度					工夫・創造					技能					知識・理解				
	題 材 1	題 材 2	題 材 3	平 均	観 点 総 括	題 材 1	題 材 2	題 材 3	平 均	観 点 総 括	題 材 1	題 材 2	題 材 3	平 均	観 点 総 括	題 材 1	題 材 2	題 材 3	平 均	観 点 総 括
時数	6	12	6			6	12	6			6	12	6							
氏名																				
生徒 J	2.8	2.6	2.4	2.6	A	2	2.5	2.1	2.3	B	2.5	3	2.8	2.8						
生徒 K																				
：																				

観点別評価の総括

2.6以上 A

1.5～2.5 B

1.5未満 C

生徒Jの分野の観点別学習状況の評価の総括の仕方

関心・意欲・態度	$(2.8 \times 6 + 2.6 \times 12 + 2.4 \times 6) \div (6 + 12 + 6) =$	2.6	A
工夫・創造	$(2 \times 6 + 2.5 \times 12 + 2.1 \times 6) \div (6 + 12 + 6) =$	2.3	B
技能	$(2.5 \times 6 + 3 \times 12 + 2.8 \times 6) \div (6 + 12 + 6) =$	2.8	A
知識・理解	$(1.7 \times 6 + 2 \times 12 + 3 \times 6) \div (6 + 12 + 6) =$	2.2	B

Q 技術分野と家庭分野の観点別評価をどのように総括すればいいですか？

A 技術・家庭科においては、教科の目標及び各分野の目標の実現を目指して、各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて題材を設定して学習指導が行われています。また、各学年における技術分野と家庭分野の授業時数が異なっても、3学年を通していずれかの分野に偏ることなく授業時数が配当されればよいとしています。

したがって、技術・家庭科の観点別評価の総括は、評価結果を題材ごと、分野ごとに総括し、技術分野及び家庭分野を合わせて年間の総括とします。その際、各分野ごとに観点別評価の総括をした後、配当する授業時数に応じて重み付けを行うなどの方法が考えられます。

このほかにも、評価の総括の仕方には様々な考え方や方法があり、各学校において工夫することが望まれます。

この手引きは、国立教育政策研究所で公開されている「評価規準等の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」(中学校)などを参考にして、作成しています。以下のURLをご参照ください。

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryuu.html>

引用文献

- ・ 文部科学省 『中等教育資料 2011年6月号』 2011年 ぎょうせい pp.38-41

参考文献

- ・ 岡 陽子編著 『新中学校 家庭分野 指導計画と題材集』 2011年 明治図書